



鶴ヶ城の石垣から

今学校では、山桜祭に向けて、準備が進められています。朝に響く、生徒達の歌声に心が温くなる毎日です。

1年生のみなさん、先日学習旅行で行った鶴ヶ城の石垣を覚えていますか。とてもどっしりとしていて、引き込まれそうな美しさがありましたよね。石垣には、大きな石もあれば、小さな石もあったと思います。大きな石には、大きな石の働き場所があって、小さな石には小さな石が気持ちよくいられる場所があるのです。そのように、お互いが支え合って、あの美しい石垣は何百年も美しいままで成り立っているのです。

合唱も同じです。一人でも消極的な人がいれば、まとまった歌声にはなりません。合唱には、ひとり一人の声が必要なんです。どんな声であっても、それは大切な「あなたの声」です。みんなの中に「歌いたい」という気持ちさえあれば、いろんな人の声支え合って、一丸となった美しさになります。鶴ヶ城の石垣と同じです。大きい声、小さい声、太い声、細い声、元気のいい声、優しい声、どんな声でも、かけがえのない大切な「あなたの声」です。いろんな声があるから、それぞれのクラスの歌声がつかれるのです。大丈夫です。自信をもって歌ってください。



実はこれは学習にもいえることです。国語や数学、英語などいろいろな勉強があると思います。得意ですぐに身につけられるもの、時間をかけて身につけるもの、間違いの中から身につけられるものなど、形は違えど、全てが重なり合ってみなさんの土台となり、みなさんを支えるのです。だから、無駄になる学習はありません。全てがみなさんにとって大切なものとなります。これからもどんどん知識を積み上げていきましょう。

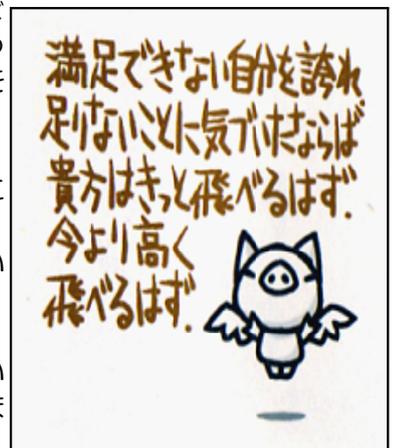
『悔しい』から感じること

中体連や新人戦を通して、悔しい思いをした人がいるのではないのでしょうか。自分が思い描いたようにできなかったのですから、悔いが残って当然だと思います。一生懸命に部活動に励んできたからこそでしょう。みなさんは、貴重な体験を生かすためにも、ここから学ばなければなりません。同じ悔しさを味わわないためにも…

『悔しい』には、2種類あると思います。一つ目は、「もうこれ以上ないというくらい本気でやってきた人が思う悔しさ」もう一つは、「努力もしていないのに思う悔しさ」です。後者は、1週間もすれば悔しさを忘れます。そして、また同じように悔しい思いをくり返します。「悔しいので次こそはがんばります。」を繰り返すのです。

これは、学習にも通じます。きっと実力テストのたびに…。しかし、前者は決して悔しさを忘れません。だから、これでは足りないとともに努力するようになります。これで十分などと考えなくなっているのです。時間が足りなくてしかたがありません。だから、力をどんどん付けていくのです。『悔しい』という言葉が発するまでにどんな過程があったかで、その人の今後が決まります。

『悔→心が毎(つねに)感じる』ものではありませんが、向上していく悔しさを味わいたいですね。3年生の次の目標は、高校合格です。まだまだ悔しい思いをたくさんしていくと思います。しかし、その思いが、自分を向上させていくための悔しさであることに期待します。



(c)ボンボヤージュ/ボン社

